

公民館サークル活動再開

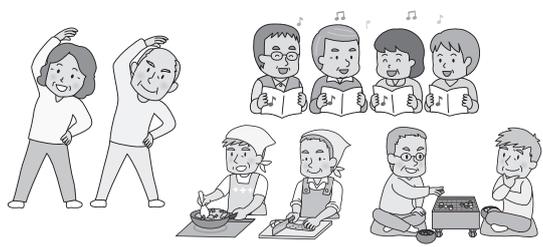


岡田公民館利用等登録団体			
団体名	内容	活動日	
生け花サークル	華道	不定期 (月 1 回くらい)	午前
W i L L - M	体操・料理	不定期	午前・夜間
岡田おはなしの勉強会りんごっこ	学習	不定期 (月 2 回くらい)	午後
岡田里山を耕そう会	学習	不定期	夜間
岡田尋常小学校	学習	毎月第 3 水曜日	午後
岡田地区囲碁研究会	囲碁	毎月第 1.3 水曜日	午後
岡田童謡唱歌を楽しむ会	音楽	毎月第 2.4 月曜日	午後
岡田パソコン同好会	IT	毎月第 2.3.4 木曜日	午前
岡田まちおこし協議会 (切絵・民話朗読)	工芸	毎月第 1.2.3 金曜日	午後
岡田歴史研究会	学習	隔月第 4 水曜日	夜間
音読サークル	学習	毎月第 2 金曜日	午後
こつこつ貯筋クラブ	体操	毎月第 1.3 月曜日	午前
三水会	料理	毎月第 3 水曜日	午前
シャドーボックス	美術・工芸	毎週火曜日・第2.4水曜日・第1日曜日	午前
手話サークル	学習	毎月第 2.4 火曜日	午後
新日本婦人の会 つくし班	体操	毎月第 1.3 金曜日	夜間
ストレッチ体操教室	体操	毎月第 1 金曜日	午後
戦争する国 No! 平和を守る岡田の会	学習	不定期 (年 5 回くらい)	
太極拳はまなす	体操	月 3 回 月曜日	午後
太極拳ひまわり	体操	不定期 (月 3 回くらい)	午後
中信健康友の会岡田支部	体操	隔月第 4 金曜日	午後
日本スポーツウエルネス吹矢協会 信州松本岡田支部	スポーツ	毎週木曜日	午後
フォトサークルあるぷす	学習	毎月第 1.3 金曜日	午前
ふよの会	麻雀	毎週水曜日	午後
松本健康マーじゃんクラブ	麻雀	毎週水曜日・第 1.4 日曜日	午後

コロナウイルス感染拡大の影響で活動の制限(行政からの施設利用の制限や自粛など)がかかっておりましたが、この4月からほぼ全てのサークルが活動を再開いたしました。

コロナ前のようにとはいきませんが、それぞれのサークルさんが対策をしながら活動を再開を喜び楽しんでいきます。密を避けるために間隔をあける。以前は向かい合っていた

のがそれをやめる。活動中もマスク着用をする。歌を歌ったり運動系のサークルさんは「やりづらいけどしょうがないですね」と苦笑いでした。公民館では複数のサークル



が活動をしておりま
す。興味がある、同
じ趣味を持つ仲間が
欲しい、などありま
したらぜひ参加して
みてはいかがでしょ
うか?
各サークルのお問
い合わせは公民館ま
で。
(取材協力・太極拳
はまなす様/岡田童
謡唱歌を楽しむ会様
/取材・浅輪委員)

岡田ぼくとニュース

山浦・公民館30年

●山浦●

町中が夜も蒸し暑い真夏でも、岡田神社を左横目で見るとあたりから急に空気の冷涼さを感じられます。松本市中心部からおよそ6km、国道143号線を北上しシンボル六助池の左カーブから500mほどの左手に山浦公民館があります。山浦町会は世帯数57、人口186名、大きな増減はないはずですが、最近はお子さんをおまわり見かけなくなつたかな、という印象です。

公民館入り口の建設標には「人やさしく温かき里」「平成5年3月竣工」「1998長野オリンピック開催年建之」「海抜735m」と刻まれています。松本市役所の「標高」が592mと聞いており、ずいぶん差があるものですね。



「どろり」で冬は厳しいはずだ。そして本年令和4年度は、公民館移転新築から30年。適正な維持管理により大変綺麗です。当時平成の一桁年代は多くの事業があり当地公民館新築以外でも国道拡幅、松本トンネル開通等地域が整備されました。山浦地区のみならず岡田出張所公民館体育館、各公民館等が新築されたのも同じ平成の初期でした。ところで居住している地域、郷土の歴史を考えるとは大変興味深いことです。平成19年6月発行「館報おかだ合冊版I・II」は昭和31年創刊号から平成19年5

月号(300号)まで掲載され、ほかにも貴重な資料が満載で時折目を通してあります。当時入手された皆様も多いと存じますが、ご自身やご家族の歩みと照らし合わせればさらに懐かしい思い出がよみがえると思います。(山浦 赤羽 晃)

アートレクチャー学芸講座 6月25日(土)於:岡田公民館



美術館所蔵作品40点のアートカードを使い、ゲームをしながら作品を知りつつ作品の見方も学ぶ講座でした。ゲームは、作品から共通点のある2作品を選び説明するもの。「はい」「いいえ」で答えられる質問を考え、そこから選ばれた作品を当てるもの。3作品を選び物語を作るもの、の3つでした。どのゲームでも作品をよく見ることが求められました。また、ゲームを進めながらカードの裏に書かれた作品名と作者を確認できました。ゲームを通し、同じ作品を見ても考えることが人によってまったく違うのがよくわかります。美術館で作品を見る時も、感じるままに好きなストーリーをその作品から作ればよいとまとめがありました。(体験・取材 尾曾委員)

小学校までの通学路が子供たちにとって、これほどに「学びの空間」「ふれあいの空間」となっているとは思ってもみませんでした。長男が片道2キロの通学路を毎日歩くことになったのは今年の4月からです。朝の7時過ぎに家を出発し、同級生や上級生と合流して、ようやく学校に着くのは8時前です。入学前に一度だけ歩く練習をしたものの、それだけの距離を歩くのはさぞかし大変だろうと思っておりました。通学にも慣れたであろう5月中旬、子供たちについて、学校まで歩いて行った時の話です。塩倉池沿いの道路には歩道がありません。背高く生い茂る雑草を背に、ガードレールが辛うじて作った路肩に沿って歩く必要があります。車の往来が頻繁にあるので、大人でも歩くには少し怖道です。子供たちは、そんな

生活雑記

通学路を子供たちと歩く 塩倉の6歳の親

なつて何やら実験しておりました。あまりにふざけが過ぎたり、歩調が入りません。歩道からはみ出て歩かないこと、追いつけないこと、いつまでも立ち止まってしまうことなどです。同じ地区のお姉さんの場合もあれば、途中から合流したお姉さんの場合もあります。地区を隔てない面倒見に、この岡田小や岡田地区の良さを感じます。加えて、里山に整備された田畑や、頂に雪を残した山々などの自然にも、その地域の素晴らしさを感じます。そして、2キロの通学路は、子供たちが自然に触れたり、友達や他の学年と交わったりして、人として成長する貴重な機会のように感じます。私が子供のときには、自動車に死角があるなんて、考えもしませんでした。今の子供たちと同じように、友達と遊ぶことにか興味がありませんでした。けれども、自動車の存在からこそ成り立つ部分もあります。私自身、通勤には自動車を用います。親として、交通安全について子供たちに何度も話をしたいと思えます。そして、ドライバーとして、今まで以上に通学路での運転に注意したいと思えます。そこには、大人が考えもしない世界観を子供たちが作っているのですから。